

治験の認知度に関するアンケート（いけんのまとめ詳細）

アンケートの質問内容（1 / 2）

①基本属性

Q1 あなたの年齢を教えてください。

Q2 あなたの学年を教えてください。

Q3 あなたの性別を教えてください。

Q4 あなたの専攻を（学んでいる分野）を教えてください。高校生の方で、文理専攻の選択がまだの方は現時点の希望をお答え頂き、社会人の方は、大学時代の専攻をお答えください。

Q5 今までに治験に参加したことはありますか。

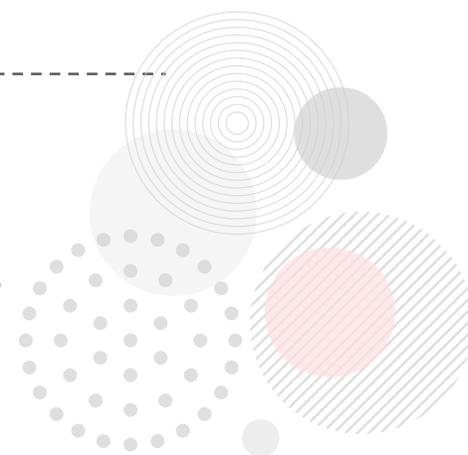
②治験の認知度・理解度

Q6 今回のいけんひろばの前に「治験」を知っていましたか？

Q7 今回のいけんひろばの前に「プラセボ」を知っていましたか？

Q8 今回のいけんひろばの前に「二重盲検」を知っていましたか？

Q9 今回のいけんひろばの前に「ランダム化」を知っていましたか？



アンケートの質問内容（2 / 2）

③ 治験の参加意向	Q10	あなたが患者の立場になったとき、治験に参加したいですか？
	Q11	あなたの親やきょうだい、パートナーが患者の立場になったとき、治験に参加してほしいですか？
	Q12	治験でプラセボが使われることについて納得ができますか？
	Q13	治療薬の効果などを科学的に明らかにするためには、プラセボを使うことやランダム化はしかたないと思いますか？
④ 治験推進のために必要なこと	Q14	治験に参加することで将来の医療や社会に貢献できると思いますか？
	Q15	治験がもっと普及するために必要なことは何だと思いますか？
	Q16	どうすれば同じ世代の人たちに治験のことを知ってもらえるか、アイデアを教えてください。
	Q17	治験に関する情報は十分に届いていると思いますか？
	Q18	治験について分からないことや期待することがあれば自由にお書きください。

① 基本属性

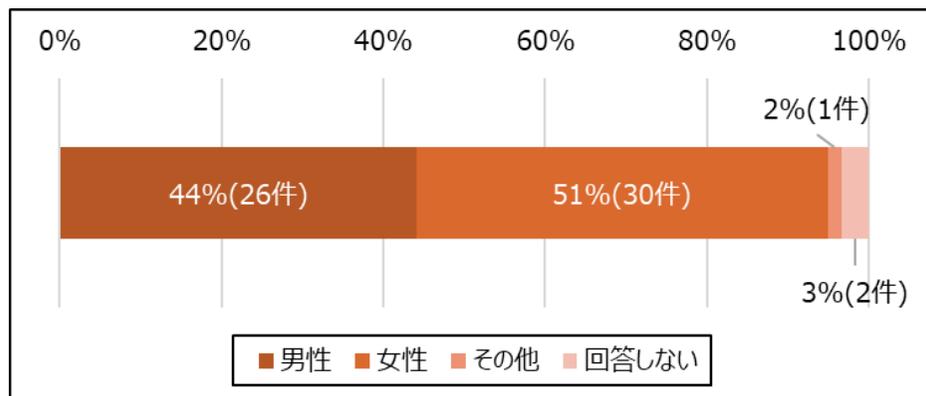
あなたの年齢を教えてください。

- 15歳～18歳 54%
- 19歳～22歳 24%
- 23歳～29歳 22%

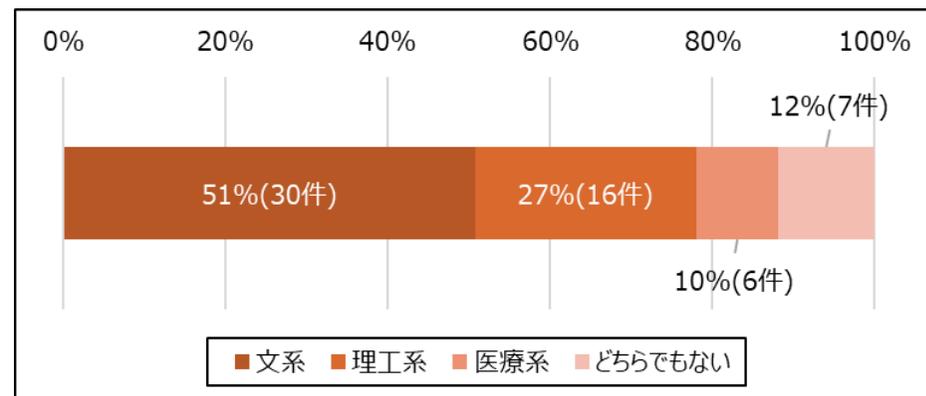
あなたの学年を教えてください。

- 高校生 53%
- 大学生 20%
- 大学院生（修士）3%
- 大学院生（博士）2%
- 専門学生 0%
- 社会人 22%

あなたの性別を教えてください。



あなたの専攻を（学んでいる分野）を教えてください。

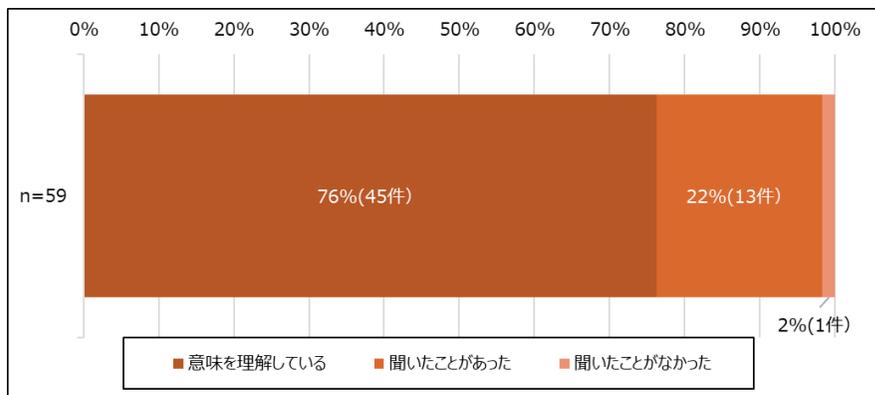


今までに治験に参加したことはありますか。

- 全回答「いいえ」であった。

② 治験の認知度・理解度

今回のいけんひろばの前に「治験」を知っていましたか？

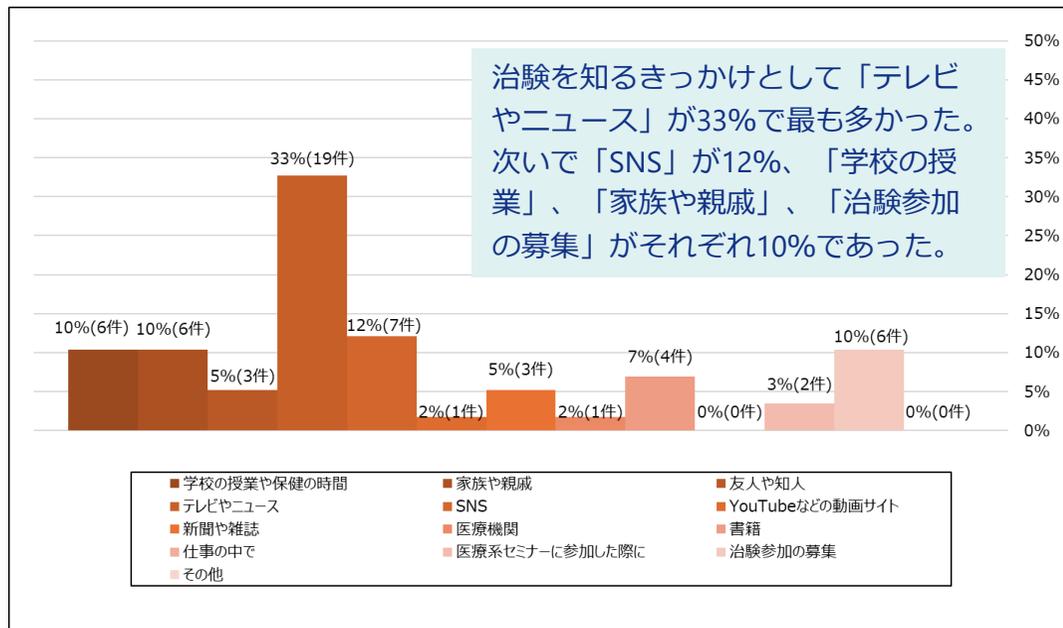


治験について「意味を理解している」、「聞いたことがあった」との回答が全体の98%に上った。

意味を理解している、聞いたことがあったと答えた方

聞いたことがなかったと答えた方

「治験」をどこで知りましたか？



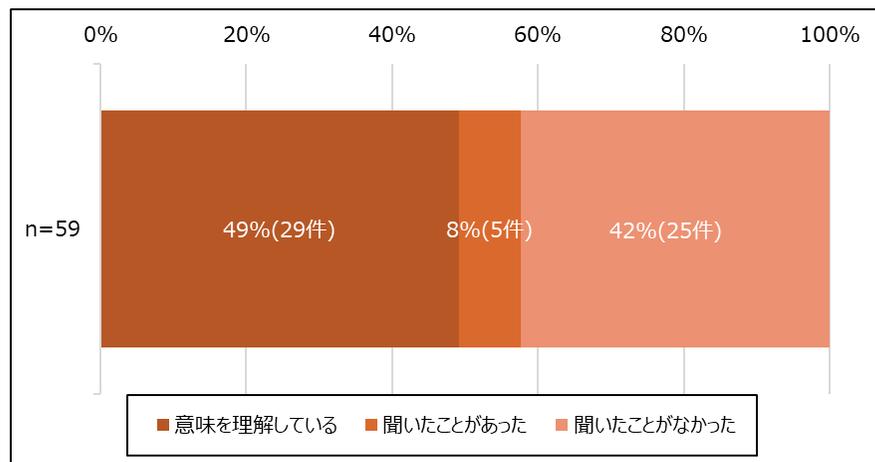
治験を知るきっかけとして「テレビやニュース」が33%で最も多かった。次いで「SNS」が12%、「学校の授業」、「家族や親戚」、「治験参加の募集」がそれぞれ10%であった。

今回のいけんひろばで治験というものを知って、どのようなイメージを持ちましたか？

- ・ 一般に使用できるようになるまでにとっても長くかかること
- ・ 自分が赤ん坊の時に治験を勧められたけれども後遺症が怖くて断ったと母から聞いていました。治験により新薬が治療に役立つ事があると知り少しイメージが変わりました。
- ・ 危険なものであるという先入観しかなかったが、なくてはならないものであると思うようになった

② 治験の認知度・理解度

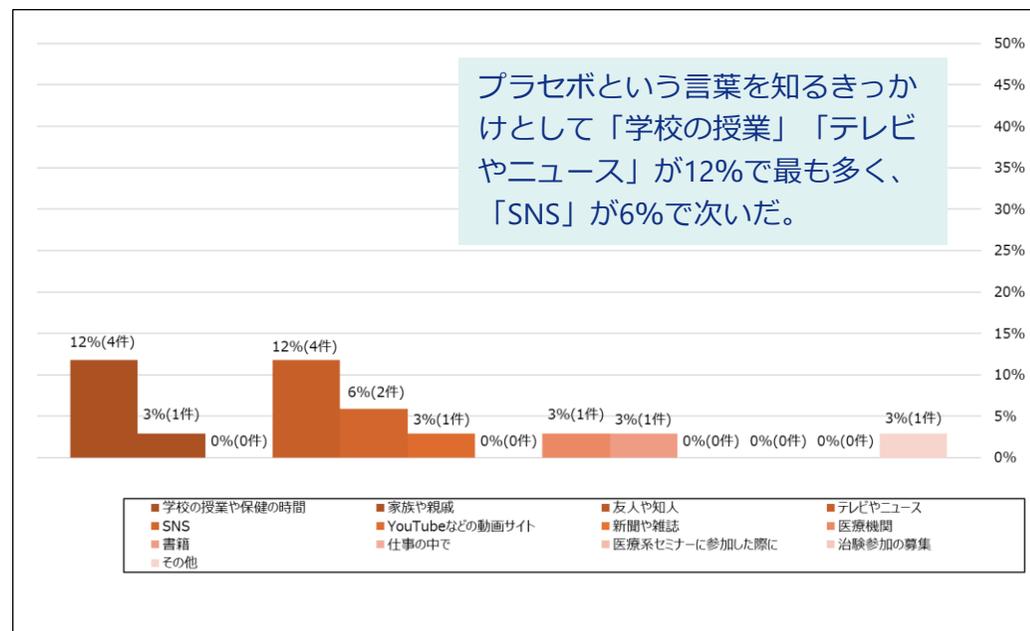
今回のいけんひろばの前に「プラセボ」を知っていましたか？



プラセボについて「意味を理解している」、「聞いたことがあった」との回答が全体の57%を占めたが、治験と比べて割合が大きく下がった。

意味を理解している、聞いたことがあったと答えた方

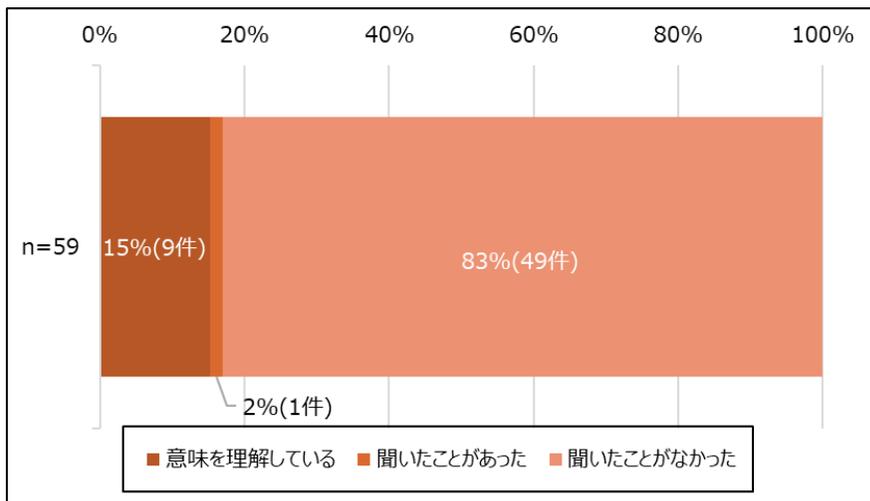
「プラセボ」をどこで知りましたか？



プラセボという言葉を知るきっかけとして「学校の授業」「テレビやニュース」が12%で最も多く、「SNS」が6%で次いだ。

② 治験の認知度・理解度

今回のいけんひろばの前に「二重盲検」を知っていましたか？

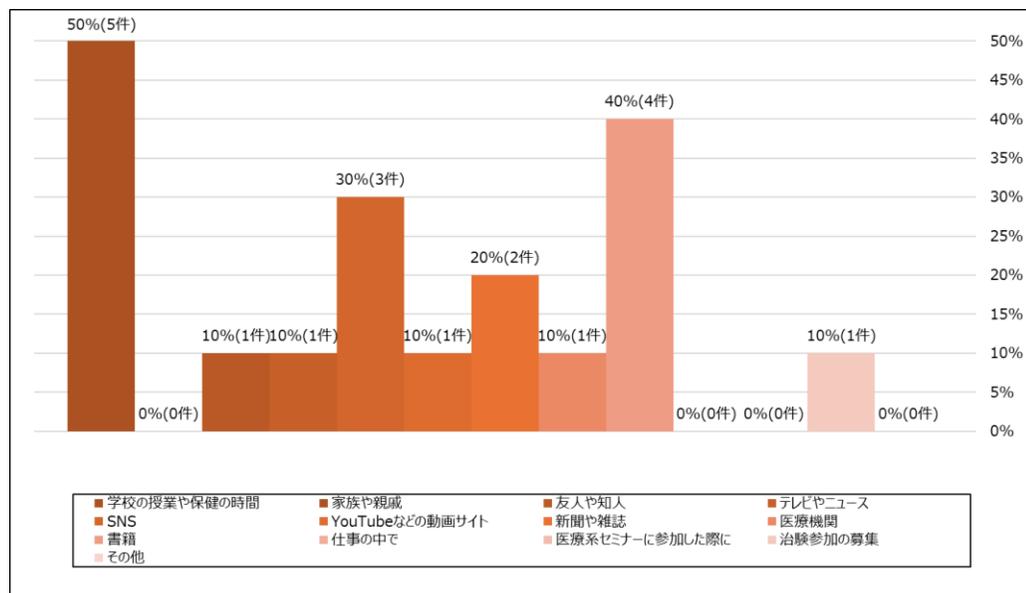


二重盲検について「意味を理解している」、「聞いたことがあった」との回答が全体の17%にとどまった。

意味を理解している、聞いたことがあったと答えた方

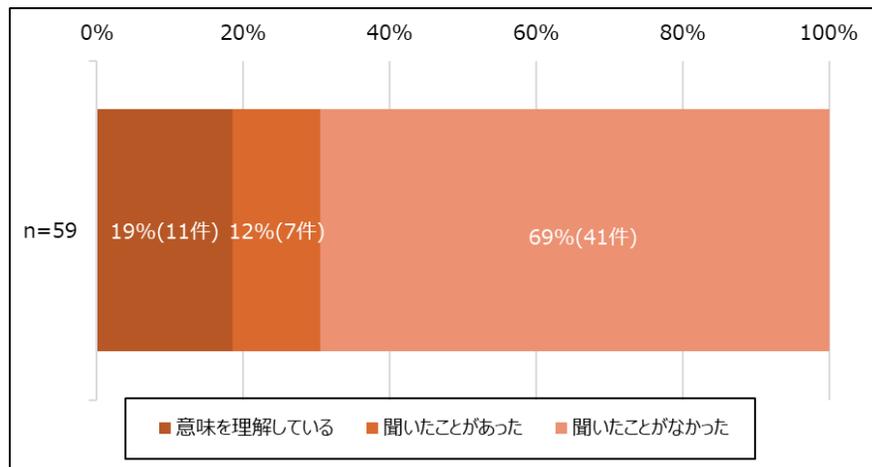
「二重盲検」をどこで知りましたか？

二重盲検という言葉を知るきっかけとして「学校の授業」が50%、次いで「書籍」が40%、「SNS」が30%だった。



② 治験の認知度・理解度

今回のいけんひろばの前に「ランダム化」を知っていましたか？



ランダム化について「意味を理解している」、「聞いたことがあった」との回答が全体の31%にとどまった。

意味を理解している、聞いたことがあったと答えた方

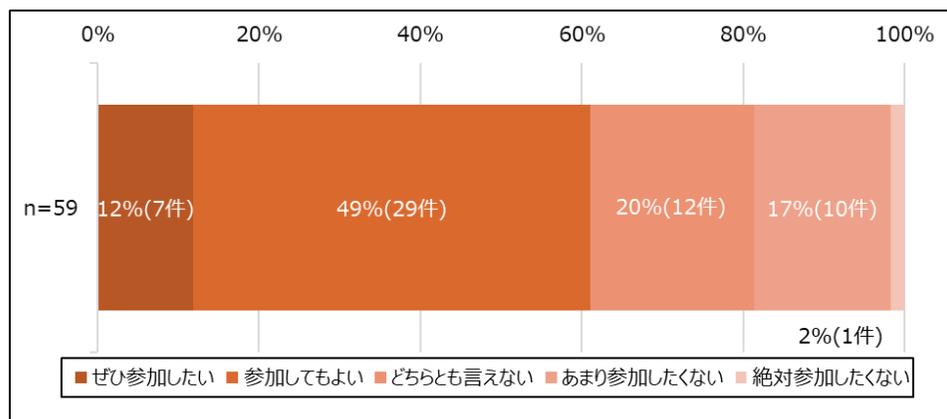
「ランダム化」をどこで知りましたか？



ランダム化という言葉を知るきっかけとして「学校の授業」が39%、次いで「書籍」が28%、「SNS」「YouTubeなどの動画サイト」が17%で並んだ。

③ 治験の参加意向

あなたが患者の立場になったとき、治験に参加したいですか？



「ぜひ参加したい」「参加してもよい」
との回答は全体の61%だった。

どのようなことがハードルだと感じるか

「ぜひ参加したい」「参加してもよい」「どちらとも言えない」と答えた方

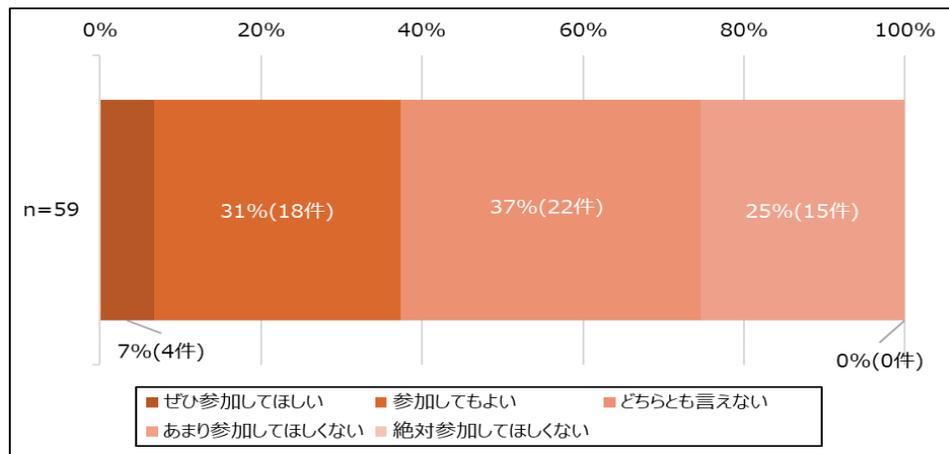
- ・ 治験という治療そのものが本当に大丈夫なものなのかという精神的なハードルを感じるように思います。
- ・ 効果が得られるか不明な点と副作用が怖い。
- ・ どうしても安全性が十分に確認されていないものに対して抵抗感と副作用などの怖さがある
- ・ もし薬によってからだが動かなくなったりしたら不安なため、安全に行えるように説明を受けてもリスクがあるのがやはり怖い
- ・ 本当のことではないかもしれないが、ドラマで治験をきっかけにして患者数名が亡くなってしまうのを見たので不安を感じる部分がある。
- ・ もしプラセボだったら通院にお金かけていたら（一部負担だとしても）無駄なコストだなと感じたから。
- ・ 治験によって病態が悪化することがあるかどうか気になってしまう
- ・ 本当に生身の人間に投与して大丈夫なのか

「あまり参加したくない」「絶対参加したくない」と答えた方

- ・ 副作用のわからない薬を使うのは精神的に辛いと感じるから。
- ・ 後遺症が残る不安があるから
- ・ 通院や指定された生活をするのが社会人あるいは理系大学生にとっては時間的にとても難しいため
- ・ デメリットがあるから

③ 治験の参加意向

あなたの親やきょうだい、パートナーが患者の立場になったとき、治験に参加してほしいですか？



「ぜひ参加してほしい」「参加してもよい」との回答は全体の38%にとどまり、自分自身の参加意向と比較して、大幅に下がっている。

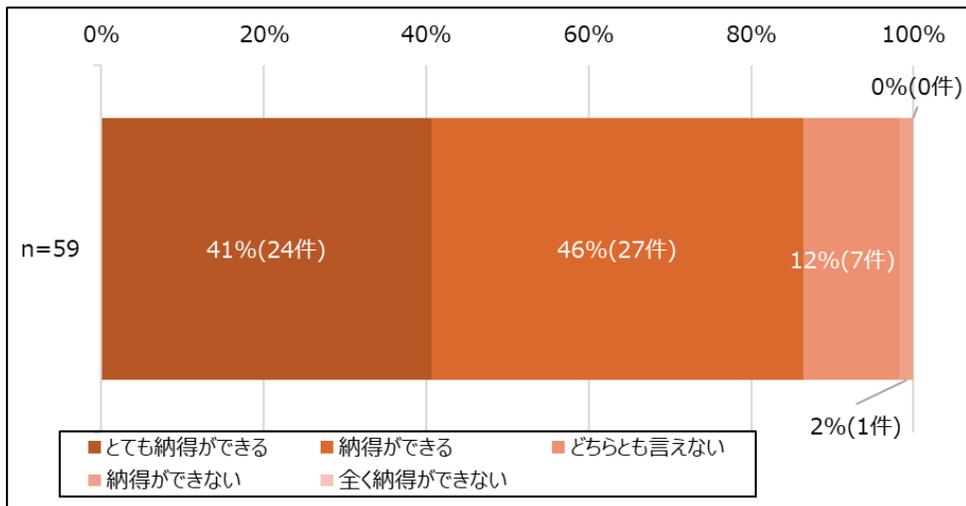
「あまり参加してほしくない」「絶対参加してほしくない」と答えた方

どのような理由でそのように思ったのかを教えてください。

- ・もし亡くなってしまったらとか考えると嫌だから
 - ・病状の度合いによるが予想外の副作用による悪化のリスクを考えると推奨したくはない。通常では治療法のないような状態であったら推奨すると思う。
 - ・悪化するリスクや未知の作用が現れることがあれば不安だから。
 - ・もし、より悪くなったら辛い。(自分じゃなければより)
- 身体障害者のレベルがその後上がったたりなどの場合、家族が負担になる。
- ・確実に安全だと言いきれない危ない橋は渡ってほしくないが、それしか治療法が無い場合は家族で話し合いたい
 - ・確実に治るかわからない

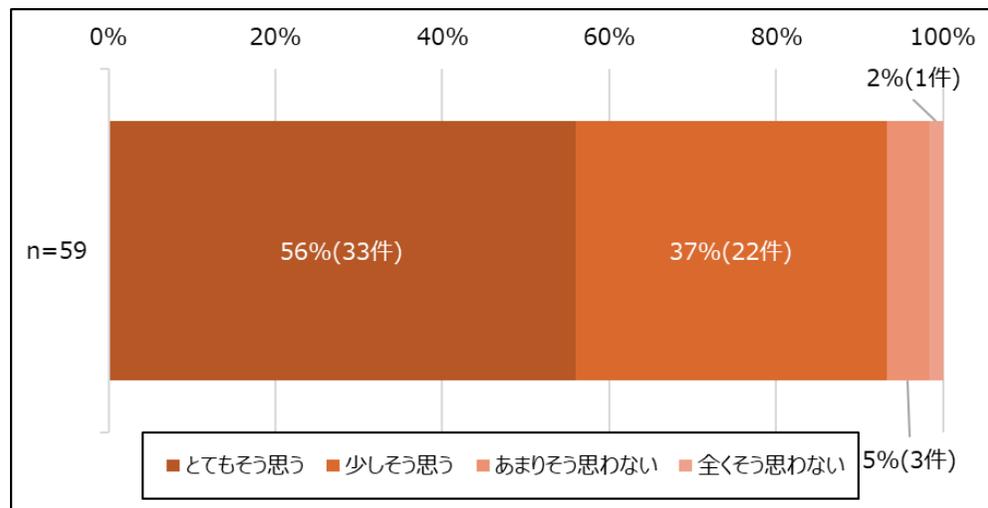
③ 治験の参加意向

治験でプラセボが使われることについて納得ができますか？



プラセボが使われることについて、「とても納得ができる」「納得ができる」との回答が全体の87%を占めた。

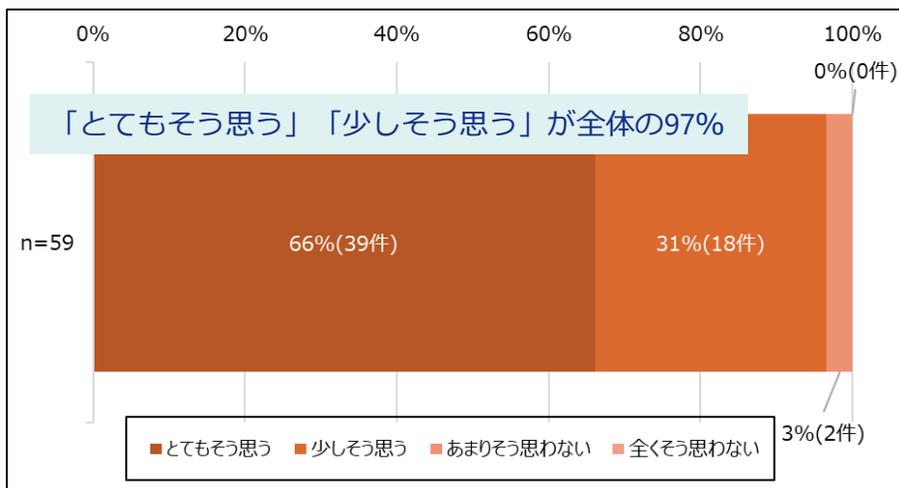
治療薬の効果などを科学的に明らかにするためには、プラセボを使うことやランダム化はしかたないと思いますか？



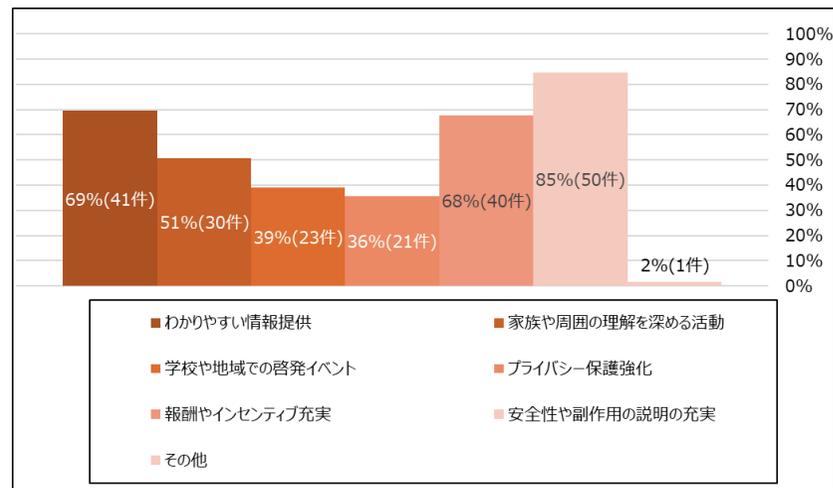
プラセボやランダム化はしかたないと思うかについて、「とてもそう思う」「少しそう思う」が93%を占めた。

④ 治験推進のために必要なこと

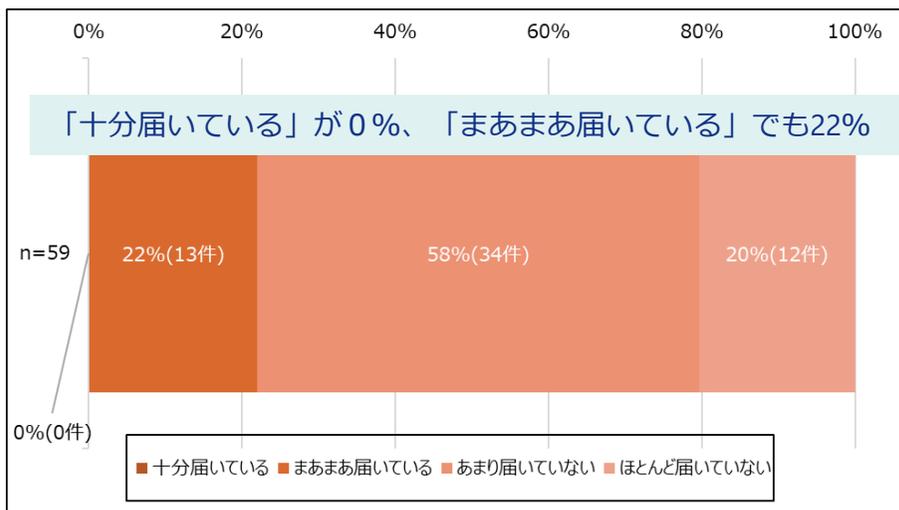
治験に参加することで将来の医療や社会に貢献できると思いますか？



治験がもっと普及するために必要なことは何だと思いますか？



治験に関する情報は十分に届いていると思いますか？



治験がもっと普及するためには、「安全性や副作用の説明の充実」が85%と一番多かった。「わかりやすい情報提供」が69%、「報酬やインセンティブ充実」が68%と続いた。

④ 治験推進のために必要なこと

どうすれば同じ世代の人たちに治験のことを知ってもらえるか、アイデアを教えてください。

SNS・デジタル媒体の活用

- ・ 治験に参加する意義やメリットをSNSや学校・会社のポスターで発信する
- ・ SNSでの活動をもっと活発に行うべき
- ・ 電車広告やスマホに流れる広告
- ・ 治験に関するドラマや劇を見たい
- ・ ネットのバナー広告など、鬱陶しくない程度の広報
- ・ 有名人に紹介してもらう。
- ・ SNSの広告は安っぽく信頼性の低いもののように感じてしまうので、反対する部分もあります。

学校教育での体系的な導入

- ・ 薬が開発されるプロセスを学校の保健の授業で扱う
- ・ 保健の教科書に載せる
- ・ 学校や企業での治験体験者による講話
- ・ 学校でリスクもだが、それよりもプラスになったことや、信頼できる理由を教える。
- ・ 健康について考える機会である高校の健康診断のときに、治験について紹介したリーフレットを配布する

インセンティブの明確化

- ・ 報酬を前面に出した広告をネット上で掲載し、治験を受けるために必要な条件として治験について知ってもらう。
- ・ 現金だけでなく景品も選べるようにすれば校則でバイトが禁止されていてもできる

医療機関での周知

- ・ 若い人は、あまり病院に行かないけれども、家族等と一緒に病院に行った際、病院で目に触れることがあれば意識が変わるかもしれない
- ・ 分かりやすい治験募集サイトを作り(出来れば国か医療団体など分かりやすく安心と分かる団体が運営)、その周知を大学病院のロビーなどでさせてもらう
- ・ 医療機関でのポスター
- ・ 病院、薬局にてジェネリック医薬品のようにもう少しポスターを増やす。

その他

- ・ 普段使う薬がどういう治験をもとに作られたかをPRする
- ・ どのような治験が行われているのか厳密な病名とは別でもう少し平易な言葉でまとめる。
- ・ なんとなく同じイメージを持つのが献血です。なかなかハードルが高くいけなかったものの、会社に入るビルに年に二回ほど献血カーが来るため、献血に行けるようになりました。仕事の時間中に行けることや会社の先輩と一緒に行けたことがきっかけです。治験とは少し違いますが、会社（もしくは学校など）という身近なところに来てもらうことが知るきっかけになるのだと思っています。
- ・ 身近な施設で受けられたらいいと思う
- ・ 同世代は医療の発展に当事者性をもった必要性をあまり感じていないので、正しく知ってもらうことは難しいと思う。
- ・ 厚生労働省や信頼できる医療機関からの情報発信が欠かせないと思う。

④ 治験推進のために必要なこと

治験について分からないことや期待すること

<治験に対する不安感>

- ・お金がない大学生の中には。リスクよりも金額(高い報酬)=治験と思っている人がいるようで、お金ないわ～、治験しようかなみたいな話も稀に聞きます。治験に参加するのは大事ですが、自分の身体を大事にすることや、目的に見合っているのか信頼感が持てません。貧しい学生をターゲットにしている危ないバイト的なものなのではと(闇のような部分を)感じてしまい、どうしても抵抗感があります。
- ・プラセボが必要なことは納得できますが、患者として治験に参加することとなった時、薬が投与されたのか分からないのは不安です。終了後に投与されたのかは教えてもらえるのかわかりませんが、もし治験に一途の望みを持って参加した人がいたら、希望を失ってしまうことにもなりかねないと感じました。
- ・やはり怖いというイメージが強かったですが、病気で困っている人がいるなら治療薬が必要だと感じました。治験の副作用がないこと、または少ない事がうまく伝わり、新薬の認可が早くおり、治療に結びつくといいなと思いました。

<情報発信の必要性>

- ・今どんな治験がされているのか、募集しているのかなどほとんど調べないと情報が入って来ないので、もっと身近に感じてもらえるとう験協力者も増えると感じる。治験自体は医療の発展のために不可欠だと思うので、もっと広く告知してほしい。
- ・治験バイトの応募サイトを見ただけではリスクがよくわからない。副作用が予測できないとはいえ化粧品と持病が指定されている治験は性質が違うと思う。その違いが直感的に分かりやすい指標がほしい。
- ・NHKやラジオ等では新しい治験について報道しているが、(それでも認知症の治験など関心度の高いもの)民放やSNSでは自分の体感だとほとんど報道されているようには思えないのもっと要請してほしい。また、学校では薬物乱用防止教室をいい意味でしつこいほど小・中・高とやっているの、少しは治験についてもやっていただきたい。(学習指導要領に治験授業を必須に)
- ・私は九州に住んでいます。地方では治験はしているのでしょうか。治験で救われる人、笑顔になれる人が増えるといいです。
- ・治験者のデータや効果や将来の医療との関係性、さらには治験に関連して助かるようになった病気などを国民に広く、そしてわかりやすく丁寧に発信すると良いと思う。

Appendix

みんなで未来の医療をつくる。「治験」って知ってる？

令和7年度 こども若者★いけんぷらす「治験に対するこども・若者世代の関心と理解度について」

治験（ちけん）ってなに？

治験は、「新しい薬」として認めてもらうための、とても大切な試験です。

色々な病気を良くするためにたくさんの薬が使われていますが、一つの薬が誕生するまでは、とても長い研究開発期間を必要とします。

まず「薬の候補」となる物を探し出し、培養細胞や動物でさまざまな試験を繰り返して効果と安全性の確認が行われます。そして、最後の段階で「薬の候補」を人（健康な成人や患者さん）に使用して、効果や安全性、適切な使用量などを確認する目的で行われる試験を「**治験**」といいます。

- 薬が使えるようになるためには、国（厚生労働省）の承認が必要です。
- 人における試験を一般に「臨床試験」といいますが、「薬の候補＝治験薬」を用いて国の承認を得るための成績を集める臨床試験が「治験」です。



おっくとすりりん

薬が誕生するまで ～みんなの協力で薬ができる！～

1つの薬ができるまでには、図のようなステップを踏まなければならない、長い年月がかかります。治験は新しい薬を誕生させるために必要不可欠なステップです。

1

基礎研究

「薬の候補」になる物質の発見、化合物の合成を行います。

2

非臨床試験

細胞や動物に使用して安全で効果があるか研究します。



3

治験（臨床試験）

人で実際に使ってみて、安全で効果があるか試験を行います。

第1相：健康な人

ごく少量の量から投与し、治験薬の安全性や体の中の動きを調べます。



第2相：少数の患者さん

治験薬の効き目、副作用、適切な使い方（量、間隔、期間）を調べます。



第3相：多数の患者さん

治験薬の効き目や安全性を最終確認します。



4

承認申請

国（厚生労働省）で承認されて初めて「医薬品」として使うことができます。



新しい薬の誕生！



5

製造販売後調査

販売後も薬の効果や安全性を調べます。

治験の流れ

1. 診察～治験の説明

治験の参加は主治医から勧められる場合と、患者さんご自身で見つける場合があります。

担当医師や臨床研究コーディネーター（CRC）から治験の目的や内容、治験薬の予想される効果や副作用の説明を受けます。



2. 同意・署名

治験の内容を十分に理解し、参加の意思が決まったら、同意書に署名します。



3. 検査

治験の条件に合うか、診察や検査をします。結果によっては、参加できないこともあります。



4. 治験薬の投与

決められたスケジュールで治験薬を使います。



繰り返し

5. 診察・検査

治験期間中は様々な検査をして、病気の回復具合や体調の変化を見ます。



6. 終了

治験が終了した後も、体調の確認をすることがあります。



治験への参加は、理由を問わず、いつでも自由にやめることができます。また、体調によっては、治験を途中で中断したり中止したりすることもあります。途中で治験への参加をやめたとしても、患者さんにとって不利益になることはありません。

治験はどうして必要なのか

治験では国（厚生労働省）で承認されていない治験薬を投与します。そのため、効果が現れない（病気が治らないかもしれない）、または副作用が発生する可能性があるなど、治験に参加する方にとってリスクが伴う場合があります。

だからこそ、参加する方の健康状態に問題がないか、細心の注意が進められます。また、治験の参加前には必ず治験の内容や予想される副作用について十分な説明が行われます。その上で、治験に参加するかどうかはご本人の自由意志で決めることができます。

このようなリスクを伴う可能性があることが分かっているにもかかわらず、治験薬を人に対して使ってみて、本当に安全なのか、効果はあるのか、どのくらいの量で使用するのが適切なのかを調べることは、新しい薬の誕生のためには欠かせないとても重要な過程です。医療はそのようにして進歩してきました。

医薬品開発に要する期間と成功確率

- 医薬品開発には一般的に9年から17年ほどかかると言われています
- 治験に進んでも有効性や安全性が確認できず、失敗することも多くあります



治験に参加しても治験薬が投与されないことがある！？

このページは、治験を担当する医師が患者さんに対して治験の具体的な方法について説明する場面です。
気持ちになってご覧ください。

患者さんの

あなたはこれから、患者として治験に参加します。

本物の治験薬を投与するグループと、見た目は治験薬と同じですが有効成分が含まれていない偽薬を投与するグループに分かれます。この偽薬は「**プラセボ**」ともいいます。どちらのグループになるかはあなた自身や担当医師が選ぶことはできず、「**ランダム化**」により、あらかじめ決まった確率（割合）に基づき決定されます。また、グループが決まった後、あなたがどのグループになったのかは、あなた自身も担当医師にも分からないようになっています（**二重盲検（にじゅうもうけん）**）。これらの方法は、それぞれのグループで効果や安全性、用法などのデータを先入観や思い込みのない状態で収集することにより、治験薬を正確に評価することを目的としています。



治験担当医



みなさんに考えて欲しいこと

- ❓ プラセボが使われることについてどう感じますか？納得ができますか？
- ❓ 治験薬の効果などを科学的に明らかにするためには、プラセボを使うことやランダム化はしかたない？

※本例は様々な試験手法の1つを挙げたものであり、すべての治験がプラセボを使うわけではありません。すでに有効性が確認されているの薬と治験薬を比較する場合があります。

アンケートの内容について

アンケートの目的

本アンケートは治験に対するこども・若者世代の認知度や理解度の調査のために行います。

アンケートの結果は、国の審議会に報告し、治験を広くしてもらう方法を検討する一助にしたいと考えています。

アンケートの内容

- ・アンケートの回答には5分程度かかります。
- ・アンケートの前半は治験や試験手法に関する認知度を問う質問です。
- ・アンケートの後半は治験の参加意向を問う質問です。自分自身や家族が病気になってしまった場面を想像して、素直な気持ちを答えてくださると嬉しいです。
- ・また、治験推進のアイデアがあればぜひ教えてください。

治験に参加することが、「新しい薬」の誕生や 将来の医療の進歩に役立ちます。

新しい薬を多くの患者さんが安心して使えるようにするために、「治験」はなくてはならないものです。薬の開発はお医者さんや研究者だけではなく、今私たちが使っている薬も、これまで多くの方々が治験に参加して、誕生してきました。
みなさんもいつ病気にかかるか分かりません。明日病気になるかもしれません。
家族や友人、そして何より自分自身のために、治験に関心を持ってもらえると嬉しいです。



おっくとすりりん

- 参考資料

参考資料（治験の探し方）

治験は主治医のお医者さんに直接相談して見つける他、インターネットで探すこともできます。

臨床研究情報ポータルサイト

患者さんや医療関係者への情報提供のために、日本で行われている臨床研究や治験の情報を検索できるサイトです。

患者さんやその家族など一般の方向けのページと医療関係者向けのページがあります

患者様やご家族など一般の方向け臨床・治験情報サイト
臨床研究情報ポータルサイト

国立保健医療科学院 | 文字サイズ 標準 大きく | ENGLISH

患者様・ご家族など一般の方向け | 医療関係者の方向け

こちらのサイトでは 病名や薬の名前などの入力で



日本で実施している臨床研究



病気の解説



一般的な治療薬



海外の研究や治療薬

の情報を調べることができます。



このポータルサイトは、患者さんや一般の方々および医療関係者・研究者への情報提供のために、日本で行われている臨床研究（試験）の情報を検索できるサイトです。そのほか、病気の解説や治療薬、海外の治療薬や治験情報もご提供しています。
このポータルサイトは、国立保健医療科学院が運営しています。



臨床研究情報ポータルサイトよりお知らせ

- 2024年5月20日 「臨床研究にぐる旅」の動画
- 2023年9月14日 「臨床研究にタルブックを

病名や薬剤名から検索可能
海外の臨床試験の情報も閲覧
することができます



疑問を解決！
臨床研究ってなに？



！ 検索方法について

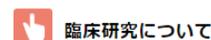


臨床研究（試験）に関連するリンク集

フリーワード検索

部位や病名、薬の名前などから検索が可能です。

検索する



臨床研究について

はじめにお読みください。
当ポータルサイトを患者さんやご家族の方

一般の方向けのページでは、治験・臨床研究とは何か紹介するコンテンツを掲載しています



臨床研究について学ぶ
臨床研究や薬ができるまで学ぶための本や教材をそろえました。



臨床研究に参加するには？
臨床研究の情報の探し方から参加するまでの流れをご説明します。



臨床研究（試験）についてのQ&A
臨床研究の情報の探し方から参加するまでの流れをご説明します。



用語集
臨床研究の情報の探し方から参加するまでの流れをご説明します。



絵本



動画

治験・臨床研究を分かりやすく学べる絵本や動画を公開しています

参考資料（治験のメリット・デメリット）

メリット

- ✓ 治験は社会貢献の1つです。治験に参加することが、新しい薬の誕生や将来の医療の進歩に役立ちます。
- ✓ 海外で承認されていて効果が認められているくすりや最新の薬による治療をいち早く受ける事ができ、治療の選択肢が広がります。
- ✓ 副作用などにいち早く対応するため、通常より細やかな診察・検査が行われます。
- ✓ 治験薬や検査にかかる費用の一部または全部を製薬会社が負担するので、医療費が少なくなる場合があります。
- ✓ 治験参加に伴う交通費などの負担を軽減する目的で、「負担軽減費」をお支払いできます。

デメリット

- ✓ 予期しない副作用が出る可能性があります。
- ✓ 決められた日程で通院、診察・検査を受けるため、病院に行く回数が増えることがあります。
- ✓ 治験薬の飲み方や生活の仕方などのルールをしっかりと守る必要があります。
- ✓ 現在服用中のくすりを中止する場合があります。
- ✓ 必ずしも従来の薬より効果が出るとは限りません。
- ✓ 治験の内容によっては偽薬（プラセボ）が使われることがあります。

